

IIIF への参加に関する関心の表明

本紙は、京都大学図書館機構が、International Image Interoperability Framework (IIIF) の目的に同意するとともに、その活動への参加に関心を表明するものである。

京都大学図書館機構は、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とし、学術情報基盤に関する目標として「京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う」とともに、「京都大学が保有する人類の知的資産を将来にわたって利用できるような保存管理体制を整備する」と定め、学術情報基盤の強化・充実に努めてきた。

そして、本学の学術情報基盤として約 690 万冊の書籍を蓄積し、国宝や重要文化財の指定を受けた資料を含め貴重なコレクションも数多く収集してきた。貴重資料については電子化を継続的に進め、現在約 4,000 点を“京都大学電子図書館”として公開している。

(京都大学電子図書館：<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/>)

また、2006 年からは機関リポジトリ“KURENAI”の運用を開始し、本学研究者の学術論文等約 14 万件を公開している。登録件数および利用件数は、日本国内でも随一である。

(KURENAI ウェブサイト：<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>)

さらに、2015 年 4 月には「京都大学オープンアクセス方針」を採択し、本学が保有する学術情報のオープン化を強く進めることを決定した。この方針を基軸として、2016 年度からは、学術情報のオープン化推進を重点的な事業として位置づけ、機関リポジトリによる学術論文及び一次資料の電子化による学術的画像資料の公開を集中的に実施する計画である。

IIIF が定めるゴールは、京都大学図書館機構の目標に沿うものであり、IIIF がそのゴールへの到達のため、世界各国の主要機関との協力体制に基づき、image-based resources の相互運用可能な枠組みを構築し、共有する資源の充実に貢献し、ひいては世界中の研究者を含む全ての人々が共有財産として利活用できる情報基盤の構築に努力していることに対し、賛意を示すものである。

そして、この国際的なフレームワークによる活動を日本でも一層広げるため、京都大学図書館機構は、その活動への参加に関心を示すことを表明する。

2016 年 5 月 30 日

京都大学図書館機構長 引原隆士